



## 開校8年目の挑戦

校長 山崎 泰央

新たな元号「令和」が発表され、新しい時代の到来に希望を抱く今日この頃です。本校は、今年度8年目を迎え、51名の新入生を含め、289名の児童と43名の教職員でスタートします。

学校教育目標は

「夢に向かってのびる杉っ子」  
～創造・発信：わくわく登校 生き生き学習 笑顔でつながる学校づくり～

です。「子どもたちがわくわく感を持って登校する学校」「友達と切磋琢磨しながら生き生きと学ぶ学校」「友達と笑顔でつながり合う学校」を創っていくとともに、地域の自然や歴史、そこに暮らす人々の願いや思いに学び、「ふるさと智頭」を誇りに思う子どもの育成に努めていきます。

さて、先日、現役を昨年引退した元サッカー日本代表選手の岩政大樹さんがテレビのインタビューに答えておられるのを聞きました。人生を歩む上でとても大切なことを話されていたので紹介します。岩政さんは、現在はサッカーの指導者や解説者として活躍されていますが、元々はサッカーの環境がそれほど整っていない山口県の離島の小さな小学校(全校児童30名)の出身です。中学校も島内の小さな中学校でした。サッカー部が結成できるほど生徒がいない学校だったため、部活は陸上部に入りサッカーは島外のチームで練習したそうです。そのような状況でも、「陸上部で一生懸命走ったり跳んだりしたことがヘディングに生きた。」「数学などの勉強を頑張ったことで論理的思考力が養われ、サッカーの戦術を立てるのに役だった。」と、置かれていた状況をプラスに捉えられていました。座右の銘を「努力や苦勞なくして得られるものはなし」と言われているのも、なるほどとうなずけました。多くの人数の中で競争できる環境ではなくても、努力でその逆境をはねのける生き方に、感銘を受けました。

本校では、統合8年目の挑戦の一つに、「生き生き学習」を掲げています。子どもたちは学校という小さな社会の中で、大勢の仲間と切磋琢磨し、成功や失敗の体験を積み重ねながら成長していきます。集団の中で学ぶことには、自分とは違う友達の意見に触れ、自分の考えに生かしたり考えを深めたりする良さがあります。そして、粘り強く学習して出来るようになったり分かるようになったりした時の達成感や成成感自信となり、学ぶ姿勢や習慣は、自分の将来を切り開く力となります。社会人として自分の力で歩める人になるための基礎を小学校から育てていきたいと考えます。また、「生き生き学習」の支えとなる「笑顔でつながる」仲間づくりの一つとして、明るいいあいさつが交わされる学校になるよう努めていきたいと思ひます。

今年一年、教職員一同一致団結して子どもたちの成長の手助けをしてまいります。保護者・地域の皆様には、かけがえのない289名の子どもたちの健やかな成長のために今後とも温かく見守り、お力を貸していただきますようよろしくお願いいたします。